

水度の低下は認められなかった。又不織布芯地においても防水加工を行うことにより或る程度の改善が認められた。

B—47 防水加工布の芯地による防水度の変化

白洋舎(株) ○西出 伸子
横山鹿之亮

1. レインコートのぬれ現象の発展は、衿および前立て等の芯地および裏地の用いられている部分から認められる。そこで防水度既知の防水加工布を芯地に重ねて防水度を測定することにより、その変化を測定した。

2. 防水加工布としては綿エステル混紡織布にシリコン系加工3種、スコッチガード加工を行ったもの1種を用いた。芯地は最も代表的なタイプの不織布、不織布接着芯地合計4種、その他に綿布、エステル布、濾紙、更にこれらに防水加工を行って試料とした。これらの試料のうち接着芯地は加熱接着を行い、その他のものは芯地の上に防水加工布を重ねて実験を行った。防水度の測定は Bundes man 防水度試験機で $550\text{l/m}^2/\text{hr}$ の条件で 10 min を 1 cycle として測定を行った。

3. 実験に供した不織布芯地は何れも防水加工布に対し総合的防水度を低下させるので、レインコート用芯地としては改善が望ましい。織布、濾紙の場合も防水度は低下を示すがその程度は不織布芯地より少い。しかし防水加工布および防水加工濾紙を用いた場合はほとんど防